

日本語と日本文学

第 25 号

-
- 絵入版本『曾我物語』について……………小井土守敏……(1)
——寛永頃無刊記整版と寛文三年刊本の挿絵の検討——
- 『保元物語』崇徳院自筆五部大乘経の検討……山田 雄司……(12)
- 〈政治〉と〈文学〉の間で……………斉藤 愛……(23)
——坪内逍遙『内地雑居未来之夢』の中の「外国人」像——
- 「ないければ」から「なければ」へ……………奥村 彰悟……(35)
—— 一九世紀における打消の助動詞「ない」の仮定形 ——
- 国語教科書における地理的教材の変容……………甲斐雄一郎……(46)
-
- 程度副詞と命令のモダリティ……………林 奈緒子 ……(左1)
- 行智と韓語……………関 丙燦 ……(左11)
——大東急記念文庫蔵『諺文攷』『諺文解』を中心に——
-

平成 9 年 8 月

筑波大学国語国文学会

投稿規定

一、投稿論文は四百字詰め原稿用紙三十枚（一万二千字）程度。ワープロ原稿の場合はフロッピーを添えて御投稿ください（原稿とフロッピーは原則としてお返しいたしません）。

一、原稿^レ切は毎年二度、二月末日および八月末日。

一、原稿送り先

〒茨城県つくば市天王台一―一―一

〒筑波大学文芸・言語学系事務室内

『日本語と日本文学』編集委員会

投稿案内

本誌では会員の皆様の御投稿をお待ちしております。

学会機関誌はいうまでもなく、学外のOB、学内の教官および学生の三者が一体となつて、当該学問に貢献しうる学問的成果を公表してゆく媒体として存在するものがあります。従いまして、本誌の一層の充実

は、この三者の構成員の熱意に負うところが多大であります。本誌の価値を高め発展させてゆくためには、これら構成員から質の高い論文の投稿を仰がねばなりません。構成員、とりわけ学外のOBの皆様の積極的な御協力を願う次第です。

投稿は「投稿規定」により、また投稿原稿は編集委員会の審査を経た上で掲載させていただきます。なお、抜刷の作製料については投稿者の御負担とさせていただきます。御了承ください。

編集後記

『日本語と日本文学』第二十五号をお届けいたします。院生のフレッシュな研究成果が多いこと、また、最近の号の中では珍しく縦書きの論文が多くなったことが特徴です。

大会案内にも記しましたが、本年は本学会創立二十周年にあたります。九月の大会も記念大会として、学会のこれまでの歩みをたどる企画等を予定しております。本誌

も今回で二十五号となりました。二十三号に創刊号からの掲載論文の一覧を示しておりますので、欠号や必要なバックナンバーがありましたら事務局までご一報下さい。

（大倉記）

平成九年 八月一日印刷
平成九年 八月一日発行

〒茨城県つくば市天王台一―一―一

〒筑波大学 文芸・言語学系内

編集・発行 筑波大学国語国文学会

代表者 北原保雄

印刷所 ニッセイエプロ株式会社

Tel. 〇二九八(五)七六五二